

ちらりム
かくづー
とちオ
ちまフ

第3回 未来絵日記 記録

千歳烏山駅周辺の
まちの将来イメージを
描くワークショップ

2025.11.22
烏山区民センター



今年度の地域WS 進め方

第1回(8/30)

課題・アイディアの共有



ワールドカフェ方式
意見交換

第2回(9/28)

課題解決・アイディアの
場所特定



テーマ別まち歩き
ガリバーマップ

▼ 第3回(今回) ▼

アイディアの視覚化



未来絵日記



第3回 地域ワークショップ～未来絵日記の進め方～

テーマ

- (1) 商店街・イベント(活性化・賑わい)
- (2) 公共施設(広場・施設)
- (3) 交通環境(道路・自転車・バス etc)
- (4) コミュニティ(遊び・文化・アート)
- (5) 住宅・みどり(環境保全・子育て)
- (6) 防災(避難場所・防災対策)

①未来絵日記作成

未来絵日記を作成します。作成できたら、テーマごとのグループ内で確認し合い、ブラッシュアップしていきましょう。

②発表と応援

グループごとに全体へ未来絵日記を発表します。
会場からアイディア・意見を頂き、意見交換を行います。

③第2回ちとからまちづくりフォーラムに向けて

第2回ちとからまちづくりフォーラムにて、
グループで出た意見等を代表として発表する人をグループで1名決めて頂きます。



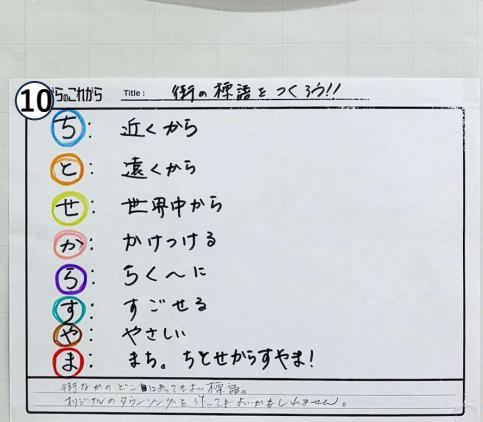
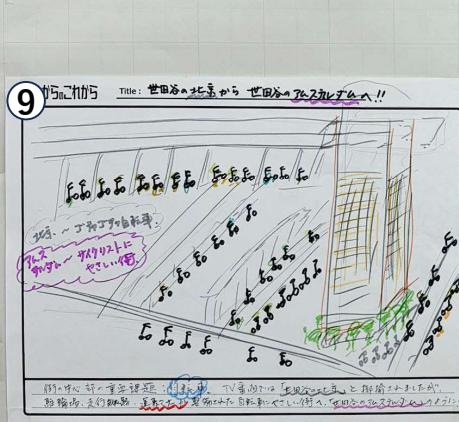
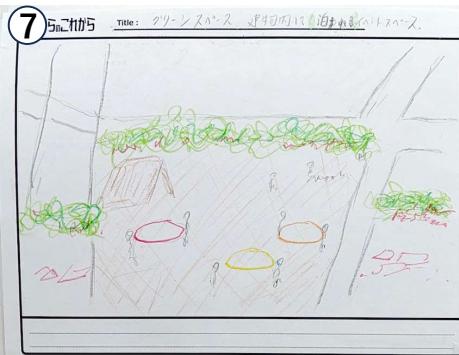
1. 商店街・にぎわいグループ

第3回ワークショップ 2025年11月22日



1. 商店街・にぎわいグループ

第3回ワークショップ
2025年11月22日



かわいい
まち
おしゃれ
なまち
まちぐら
ハーブス
エイヒス
おしゃれな
クリエイターハウス

⑦ 「グリーンスペース 建物内に泊まれるイベントスペース」

タワーマンションの上階にグリーンがたくさんある憩いの場を設け、泊まれてキャンプを楽しむことができる場所をつくりたい。

⑧ 「ヒューマンスケールのホッとする街」

バラバラでもドイツのように絵やプランターを置いて、一部を揃えるだけで統一感をもたらす街並み。ヒューマンスケールで可変性のある街。歩行者天国の路地で野菜フェスやJAZZフェスがある街。プランターを置くなどみどりのある街。ゆっくり歩いて買い物も楽しめる街だと良い。

自動機械式の立体駐輪場を設けて時計台のようなデザインにしてシンボルにしたい。

⑨ 「世田谷の北京から世田谷のアムステルダムへ!!」

テレビ番組「アド街ック天国」の16位に自転車の風景がランクインされ「世田谷の北京」と呼ばれていた。駐輪場や走行路などハード面の整備と共に、利用者のマナーなどのソフト面もきちんとしている街をアピールして、アムステルダムのようなサイクリストに優しく整然とした街並みをつくりだしたい。

また、アムステルダムは芸術の街としても有名である。アートや音楽のイベントを開催し、「世田谷のアムステルダム」と呼ばれるような街にしたい。

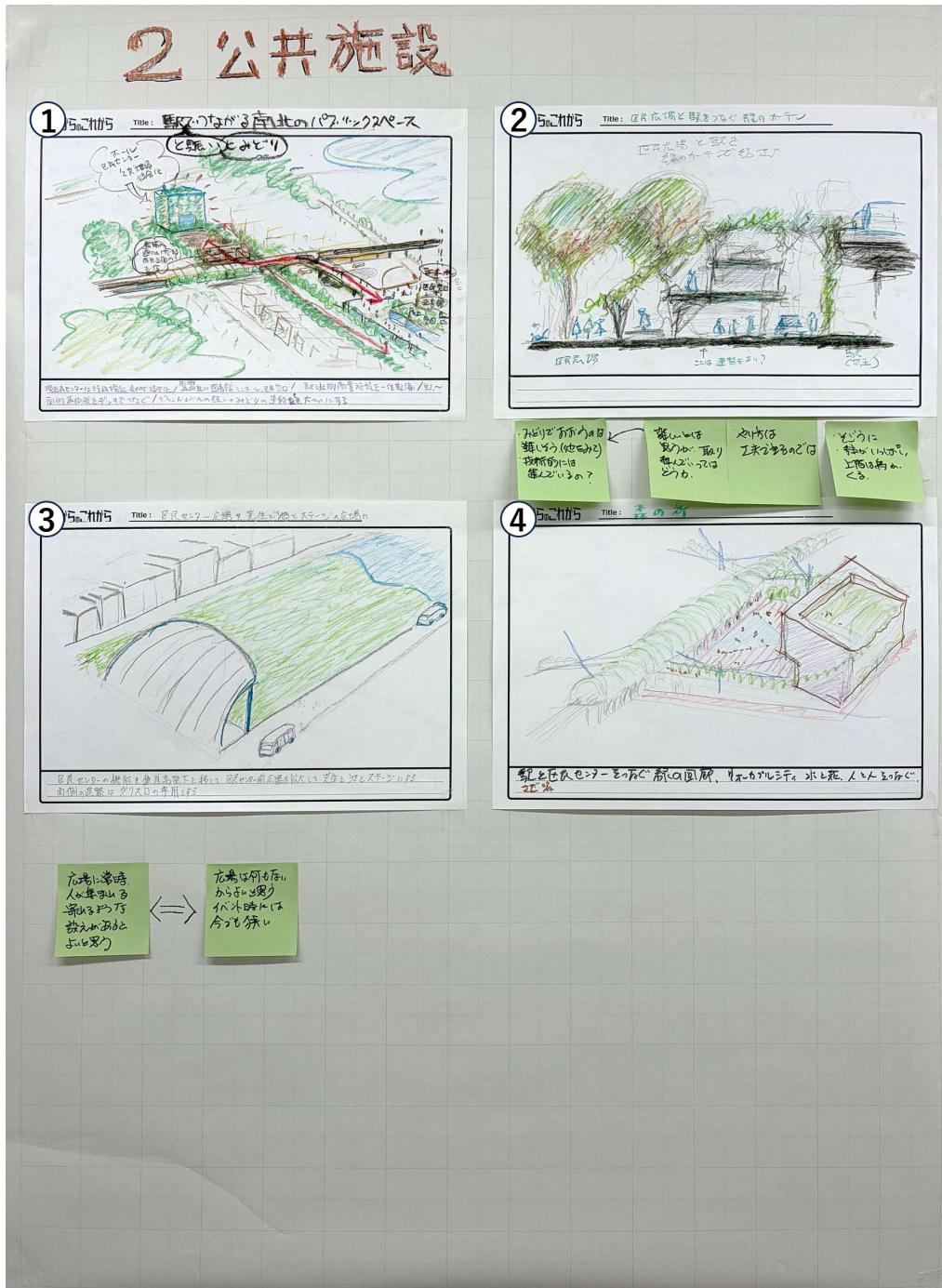
さらに、自転車を締め出さない街にしたい。ちょっと遠い街から人を呼び込むためには自転車は重要なツールである。自転車に優しい街並みをつくっていくことで、より賑やかなまちづくりをしていく。

⑩ 「街の標語をつくろう!!」

標語をつくった。「ちかくからとおくから、せかい中からかけつける、らくへにすごせるやさしいまち、千歳鳥山」。これは商店街をはじめ、どこでも使える標語。イベントでも、公共交通にでも表示して、スローガンのようにみんなに浸透していくといいな、と思う。

2. 公共施設グループ

第3回ワークショップ
2025年11月22日



① 「駅と賑わいとみどりでつながる南北のパブリックスペース」

公共施設を地域全体で見直す提案である。京王線の北側は、現在の区民センターの場所に、ホールと区民センターに行政機能を追加し複合化する。南側は、再開発の場所に文化的な図書館やミニホール、区民窓口、屋上庭園を設ける。

北側と南側を駅を介してつなげられると良いと思った。駅北側の商業施設と駅を一体的に整備し、駅と南側の再開発をデッキでつなぐ。駅は南北に通り抜けができるようにし、両正面にお店を並べ、駅前通りも含めグランドレベルの賑わいとみどりの連続性も大切にする。駅の南北の動線を全てつなぎ、南北のパブリックスペースが賑わいとみどりで連続すると良いと考えた。

② 「区民広場と駅をつなぐ緑のカーテン」

京王線北側の区民センター広場について考えた。京王線の高架はインパクトがあるので、高架から、駅と広場の間の商店を超えて広場までみどりで覆ってはどうかと思い、みどりのカーテンが広場に面して連続する断面を描いた。

③ 「区民センター広場を芝生と池とステージ広場に」

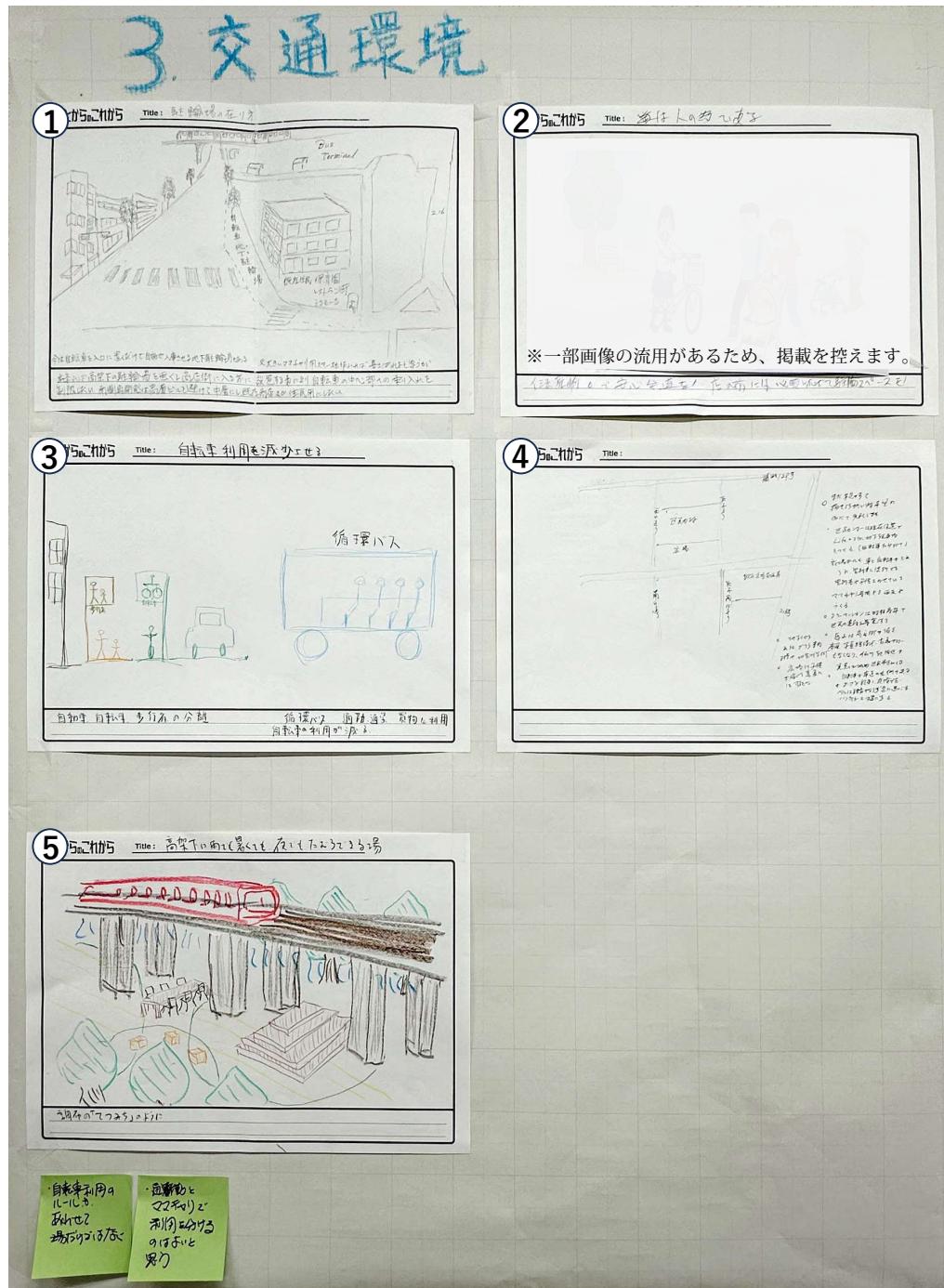
区民センター前の広場は鳥山の財産である。他の街を見ても、駅の前にこれほどの広場がある街はない。老朽化している現区民センターは壊して、区民センターの機能は高架下に移す。そして、広場を拡張して芝生と池、ステージを設ける。

また、ゴルフカートのような交通手段であるグリーンスローモビリティ（通称：グリスロ）を取り入れることにより、駅周辺の自転車問題も解決するのではないかと考えた。

④ 「駅と区民センターをつなぐ緑の回廊」

京王線の高架は巨大な構造物なので、高架をみどりで覆い、そのみどりの軸が北側の区民センター側や南側の再開発側にデッキでつながって、みどりの回廊をかたちづくる案を考えた。

また、その周辺を歩行者優先とし、花とみどりが豊かなウォーカブルシティを実現したい。



① 「駐輪場の在り方」

駅周辺では、駅前広場南側地区が整備されると車の交通量が増えると思われるが、補助216号線の整備により商店街に車はあまり入ってこなくなると思う。そこで、車ではなく駅周辺の大きな問題である自転車の駐輪について考えた。

買い物に来ている人は商店街の中に自転車で入りたい人が多いと思うが、通勤・通学の人たちは商店街まで入る必要はないと思い、通勤・通学用と買い物用の駐輪場は分けて考えてはどうか。京王線の北側に駐輪場を新たに設ける場所は見当たらないが、南側は駅前広場南側地区の地下に大きな駐輪場を設けられる可能性がある。高架下に駐輪場を設けるのではなく、商店街に入る前の位置に駐輪場を設けることにより、中心部への自転車の乗り入れを制限したい。

② 「道は人のためにある」

かつて駅前通りは幅が4～6m程度しかなかったが、50年ほど前に商店街の協力で12mの通りにしたようである。皆が規則を守って駅前通りに駐輪しないようにすれば、人が楽しく歩けるようになり、とても素晴らしい通りになると思う。そのため、必要に応じて店の前に駐輪スペースを設けることも大事になる。

50年後に新しい鳥山のイメージができているように、赤ちゃんからお年寄りまで誰もが安心して楽しく通れるような人に優しい駅前通りにすることを目指して、道づくりやまちづくりを行っていきたい。

③ 「自転車利用を減少させる」

鳥山は自転車利用がかなり多いので、自転車の量を減らすという視点から、住宅街の中を走る循環バスを考えた。通勤・通学や買い物で利用できる循環バスを走らせることにより、自転車で駅前に来る人を減らせるのではないかと思った。

あと、駅前は自転車や車、歩行者の通行が入り乱れているので、それぞれの専用レーンをつくって分離させた方が安心して利用できるのではないかと考えた。

④ 「無題」

買い物を便利にするため、現在の区民センターの地下に駐輪場をつくる。また、特にスーパーなどの店舗には専用の駐輪場をつくる。子どもを乗せられるママチャリ用もつくる。

仙川では広い遊び場があるため、マーケットで買い物をしている間に遊ぶことができるが、鳥山ではそれができないのではないか。鳥山には子どもたちの遊び場がほとんどないので、区民センター前の広場は大切だと思う。子どもの広場利用の際に夏の暑さは考慮しなければならない。噴水は管理等で問題があるようだが、真夏の暑さ対策に有効だと考える。

⑤ 「高架下に雨でも暑くても夜でもたむろできる場」

調布では、京王線の地下化による鉄道跡地に「てつみち」という、鉄道の跡を残したまま様々なかたちの椅子などが置いてあるフリースペースが整備され、夜に小雨が降っているときでも若者がたむろしていたりして、多くの人たちに使われている。

鳥山では若者の居場所がないという話を聞くことが多い。そこで、その居場所づくりのため、計画されている京王線の高架下を活用することを考えた。高架下は雨天時もいられるし、高架から強力な冷房を効かせることにより、夏でも屋外にいられるようになる。様々なかたちの椅子を置いたりみどりを豊かにすることにより、若者の居場所や夏でも子どもが遊べるスペースになる。



①「地域のハブになる・コミュニティを拡張する駅前通り」

駅前通りを歩行者優先空間とし、ベンチや飲食できるテーブルなどの滞在スペースを設けることで、まちに滞在と交流の時間を生み出す提案。

複数の店舗の商品を広場で一緒に楽しむことができるようにして、商店街全体の回遊性と送客効果が高まる。

駅前通りと区民センター前広場の役割を分け、広場は芝生などの居心地の良い空間に再編し、まち全体でパブリックスペースを活用できるようにしたいと考えた。

②「Happy★広場」

再開発や区民センターの建替えのタイミングで、鳥山の財産である駅前広場をさらに魅力的な場所にする提案である。

広場にパブリックビューイングの設備を設け、地域のイベントを皆で楽しみながら一体感が生まれる場所にしたいと考えた。床はレンガや木材、植栽など心地よい素材で整え、アートベンチや果樹を配置し、居心地よく滞在できる広場を目指す。

③「公園を中心に回遊できるほっこりとした商店街」

鳥山は広い範囲を回遊できる街だと感じており、駅前南側にできる公園(広場)をその中心に考えた。道路を挟んで商店街と低層の建物が並び、通り抜けながら公園にも道路側にも出られる空間としたい。

まちで会った人と「ちょっと話そう」と言える場所として公園を使い、会話が弾む場になれば良いと考えた。

④「住んでいる場所でのコミュニティをつくる」

近隣のマンション住民がコミュニティに入りにくい課題があると感じている。

町丁目ごとに農園をつくり、地域の人が育て、管理しながら交流する場にすることで、話すきっかけが生まれ、自然に関係がつながると考えた。

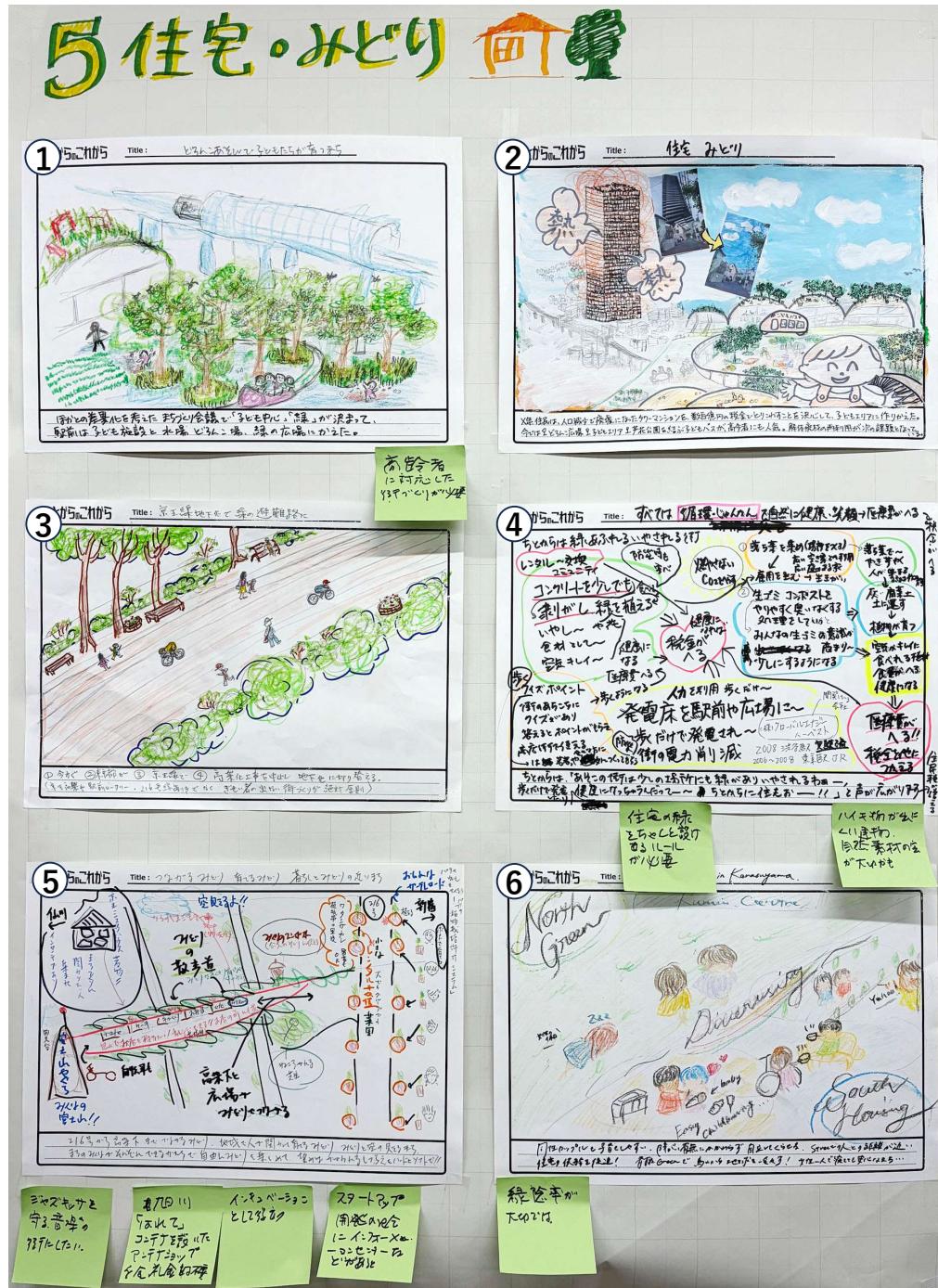
食べ物を育てることを通してコミュニティを築ける場所にしたい。

⑤「女性向けスタートアップオフィス」

子育て中でも働きたい女性のために、託児所や小児科、会議室、コピー機、休憩スペースなどがひとつのフロアにまとまった場所が必要だと考えた。

子どもが熱を出したり騒いだ時にも、すぐ迎えに行ける距離にある安心感が大切。

仕事と子育てを両立できる環境があれば良いと思った。



① 「どろんこあそびで子どもが育つまち」

② の子どもエリアのイメージを具体的に考えた。水場に樹木が立ち並び、ドロンコ遊びがしたい放題できる子ども広場である。

② 「住宅みどり」

X年後、タワーマンションが人口減少に耐えられず、廃棄物化して熱をいっぱい出している。数百億円の税金がかかるが、住民は取り壊しを決心して子どもエリアに作り変えた。

そして、北のどろんこ公園～子どもエリア～芦花公園を結ぶ子どもバスが走っている。子どもバスは高齢者にとても人気になっている。

課題はタワーマンションを解体した後に建築廃材がたくさん出たので、それをどうするかみんなで考えているところを描いた。

③ 「京王線地下化で緑の避難路」

基本は、犠牲者の出ないまちづくり、これが絶対である。そして、もう一つは緑を多くして環境を守ることである。京王線高架化、駅前ロータリー、補助216号線ありきではなく、よくないと思うことは今からでもやめて、京王線を地下化し、その上部をいざれ起こる直下型地震時のために緑の避難路にする提案。

④ 「すべては循環で自然に健康・笑顔一医療費が減る一税金が減る」

落ち葉を生ごみで出すのは忍びないので、みんなで焼き芋ができたらよい。そこでコミュニケーションが生まれる。また、落ち葉で腐葉土をつくり、植物を植えたり食べられる物を育て自然の循環をつくりだすと、空気もきれいに。

発電床を駅前ロータリーや公園に設え、まちづくりのための電気、防災に使える電力をつくる。街にクイズポイントをつくり、クイズに正解するとポイントが当たり商店街で使える。

全ては循環であり、千歳烏山に住むと自然に健康になり笑顔になる。健康になるので医療費がかからず税金が減る。それを知って千歳烏山に住む人が増え税収も増えるという提案。

⑤ 「つながるみどり 育てるみどり 暮らしとみどりの近いまち」

誰もがちょっとずつみどりに関われる。1人からでも利用できるレンタル花壇、レンタル菜園が街なかのいたるところにあり、1人1ポットから気軽にみどりに関われる環境がある。

広場から高架下までみどりでつながり、広場は芝生で覆われ寝転がると空が見える。広場にはみんなのコンポストがあって、みどりの循環ができる。

高架下には烏山に出店したい人たちがチャレンジできる店舗を設ける。

京王にシェアハウスを建ててもらい、まちづくりに関わる若い人はそこに住めるようにする。

もの見やぐらを建て、みんなで富士山を見られるようにする。

⑥ 「Diversity in Karasuyama」

京王線の北側はみどりに焦点を当て、京王線の南側は住宅に焦点を当てる。テーマはダイバーシティ、多様性の千歳烏山である。

住宅は、同性カップルも子育てしやすい、障害のあるなしに関わらず自立して暮らせる。

街中でヤッホーと言い合える街で、知り合いと道で挨拶を交わす。

烏山区民センター広場を芝生で埋め尽くし地球を冷やす。

広場で女性が一人で寝転がり寝転をしても安全安心でいられる。

6. 防災グループ

第3回ワークショップ 2025年11月22日



各グループの未来絵日記に寄せられた提案や応援などの意見、質問は以下の通りです。

1. 商店街・にぎわいグループ

海老名市文化会館では毎月無料のコンサートなどが開催され芸術にふれられる。千歳烏山も芸術の街に！



2. 公共施設グループ

緑で覆うのはとても良いが、他の場所を見ていると難しそう。若者に苔で建物を覆う案もあった。
緑で覆う技術は進んでいるのか？

↓
工夫は必要だと思うが、取り組んでみてはどうか。やり方は工夫できると思う。

横浜のそごうデパートは緑がいっぱいです
鳥も鳴いている。子どもも遊べて、買い物も楽しくなる。



3. 交通環境グループ

自転車は大事なツールなので、駐輪場所だけでなく自転車利用のルールも合わせて考えると、良いまちづくりになると思う。

通勤利用とママチャリの買い物利用を分けるのは良い考えだと思う。
お店に駐輪場の設置を義務付ければ、路上の駐輪が減ると思う。

4. コミュニティグループ

スタートアップ支援は女性向けだけでなく男性向けもほしい。

昔は駅前に保育園などがあったが今はなくなってしまった。烏山に大切なものを残すことを考えないと、特急が停まるだけがメリットの駅になってしまう。

5. 住宅・みどりグループ

太陽光発電パネルは壁にも付けられる。

高齢者に対応した街づくりが必要だ。

ヨーロッパでは緑陰率も大切し、木陰をいかに広げるかに重きを置いているようだ。

6. 防災グループ

えるもーる記念館賛成!!
商店街事務所の階段をのぼるのが大変なので、外付けでカッコいいエレベーターをつけてほしい。バリアフリー化のひとつとして。

防災で地下も活用してほしい。

最近建てられる住宅にはみどりが少ない。手入れが面倒なのかも。道路側にみどりを設けるルールをつくり、そのみどりを誰でも手入れできるような場所にするなどして、みどりを増やしていきたい。

旭川に「はれて」というコンテナを用いた店舗が並んでいる場所があり、敷金礼金不要でお店を始めたい人のインキュベーション施設となっている。同様なことを京王電鉄の協力のもと、高架下でできると良い。

駅前に来ると、防災やえるもーるの活動が分かるようになると良い。

駅前にからぴょんの銅像がほしい。

防災訓練は区民しか参加できない。→どう考える？

震災等で建物が壊れても、廃棄物が少ない建物ができると良い。木などの自然素材はシックハウス症候群も起こりにくそう。冷暖房に頼らなくても暮らせるようになると良い。

ジャズ喫茶を守るなど、音楽の街にしていきたい。

駅前にスタートアップの場所、そして烏山ならではのインフォメーションセンターなど、情報を発信できるスペースがあると良い。

山下駅の情報スペースみたいなところがあるといい。

防災マップに個人の情報をマッピングしていいの？
→どう考える？

